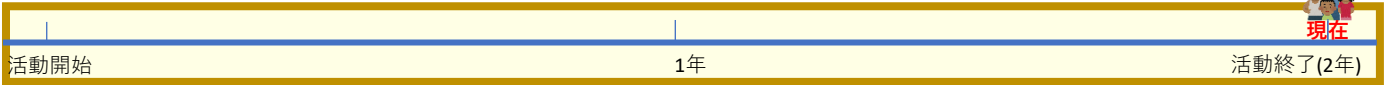


活動期間メーター



2年間の集大成！ラスト2か月の活動の先には・・・

2年間の活動の集大成と言える最後の2か月の生活をまとめました。赴任当初は、思い悩み、不安を感じ、立ち止まって考えた時間も多かったですが、この2か月では様々なことが動き始めました。ようやく自分の存在が地域に認められたと感じた頃に活動期間終了となり、いろんな思いが錯綜する中活動を終えました。

1.

認知症高齢者デイケアで介護予防&日本文化を伝える



配属先から2 kmの距離にある精神科病院に週に1回訪問して活動を行いました。この精神科病院では、認知症のデイケアを行っており、そこで認知症進行予防のアクティビティ方法の紹介や日本の文化紹介をしました。日本語を積極的に学ぼうとする利用者さんもいて、急な日本語教室が開催されたりと、日本を通じた高齢者との繋がりを持つことができました。また、毎回高齢者と会うたびに「こんにちは」「ありがとう」など日本語で話かけてくれることは認知症予防に良い効果だなと感じました。

2.

隊員の配属先に訪問してアニメソングライブ開催



コンケン県にある肢体不自由児学校に配属されている隊員の元を訪問し、ウクレレの弾き語りを行いました。最初、子ども達が喜んでくれるような歌は何だろうとあれこれ考すぎましたが日本のアニメソングを歌うと、「知ってるー」という子が多数いて、一緒に口ずさんだり、笑顔も見られました。最後は、タイの子どもなら全員知っている「チャーン（象）」を合唱し非常に盛り上がった訪問でした。また、このライブの様子はSNSで生配信を行い、他の隊員にも知ってもらったいい機会となりました。隊員の配属先へ訪問することは、いい刺激とプラスアルファの活動となることを実感しました。



3.

配属先の忘新年会のステージで熱唱



配属先の病院の忘年会、2日前に同僚から「ステージで歌って」と言われ、どんな状況かも把握できないまま当日歌うことになりました。私が同僚達の踊りに合わせてと共に歌う練習はたったの1時間だけと、日本でこのような状況であれば不安で仕方ないくらいの練習量でした。しかし、タイのすごいところは、本番2日前くらいから練習を始めてもなんとかなってしまうところ。当日は約200人を前に歌うという貴重な経験ができました。披露する状況をほとんど理解してないまま歌い終えた自分を、褒めてあげたい日でした。

4.

タイの社会保障制度を知るソーシャルワーカー面談



タイの社会福祉士と出会う機会があり、2か月間数回、その方の面談の場に同席をしました。精神科病院を退院する患者の支援では、患者の住む地域に赴き、関係者と事前連携を行いながら、退院後の不安のない生活を調整をする場面がありました。支援の方法などは日本で自分が行うものとほぼ同じだと感じました。また、日本に比べフォーマルなサービスは少ないものの、地域住民や保健ボランティアなどインフォーマルなサービスでは、タイの方が充実しているところがたくさんあり、日本が学ぶべきところもたくさんありました。



5.

最後の活動！高齢者クラブ

毎月行ってきた高齢者クラブの最後の活動日。今までの活動の集大成として、日本の文化を伝えるお守り作りと介護予防の運動と、「あなたにとって幸せとは？」というお題で高齢者に質問を行いました。私が今回で最後だということを告げると、皆さん寂しそうにしながらも、「またおいでね」とか「幸せを願っているね」とか、温かい言葉をかけてくれました。この2年間、たくさんの地域の人と関わったことを改めて実感する日でした。





語りきれなかった思い出を写真で紹介

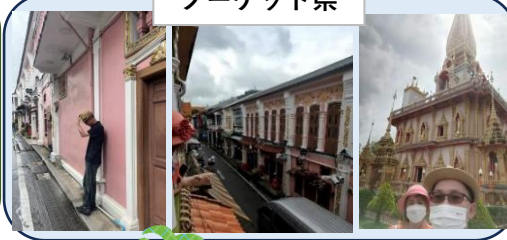
タイのいろんな県を巡り食や文化を楽しみました。



チェンマイ県



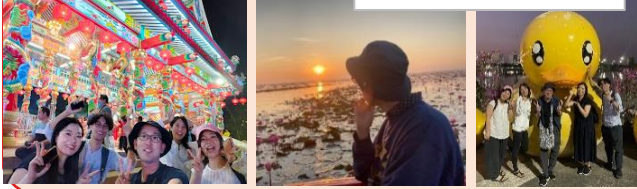
プーケット県



パンガー県



ウドンターニー県



ウボンラチャタニー県



ラチャブリー県



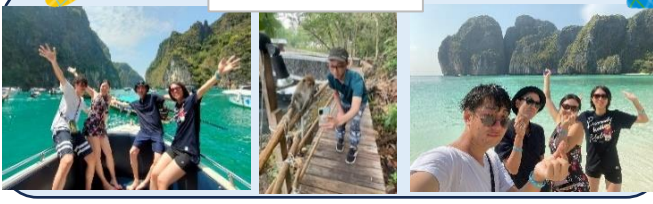
サムットソンクラーム県



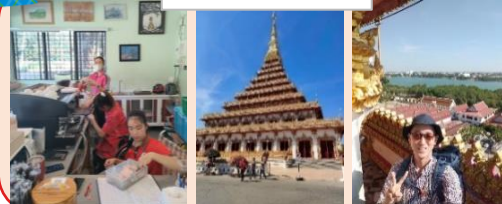
トラン県



クラビ県



コンケン県



サムットプラカーン県



スラターニー県



サムイ島



パンガン島



バンコク都



2年間の活動を終えての感想

2年間のタイ生活が終わりを迎えます。前号でもお伝えしましたが、2年を振り返ると最初の1年はモヤモヤした時期が多かったように思えます。しかし、1年6か月を過ぎたあたりから自分の経験や知識、日本人というアイデンティティを活かした活動ができるようになったと実感しています。ようやく軌道に乗ったところで活動が終わるのは、少し残念な気もしますが、その達成感8分目くらいがちょうどよいのかなとも思います。

海外に住むということは、いろいろな新しい発見や文化の違いなど刺激的に感じることも多かったです。しかし、言いたいことが伝わらないもどかしさ、今まで経験したこのない違和感や危険を感じたのも事実です。

自分が日本人であるということを再認識し、日本の良さを改めて考える良い機会にもなりました。この経験を伝えることで、日本と海外の懸け橋となる人材を育てるのが次の目標です。